

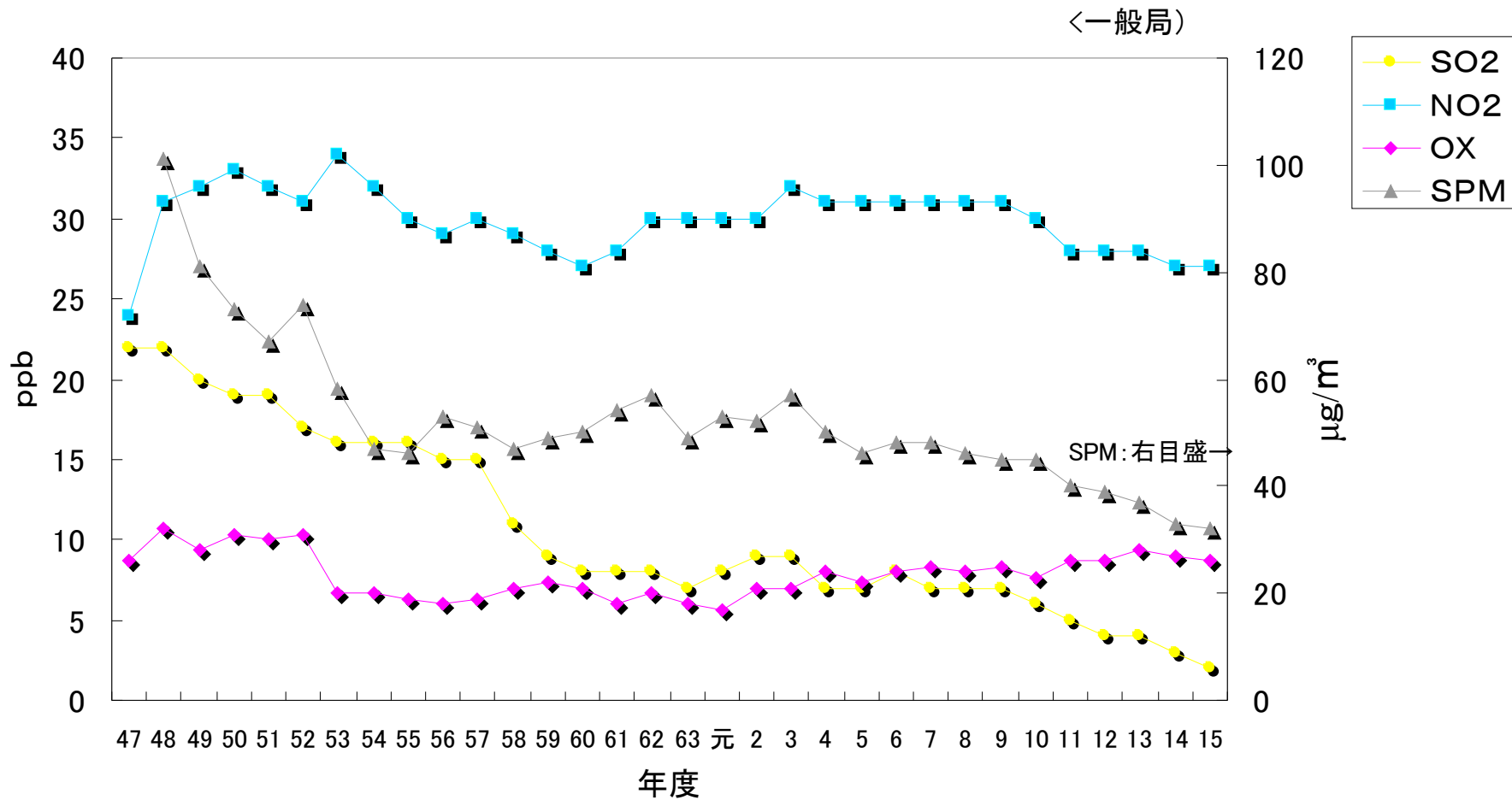
平成17年7月8日

CEMAシンポジウム

東京都のVOC削減対策

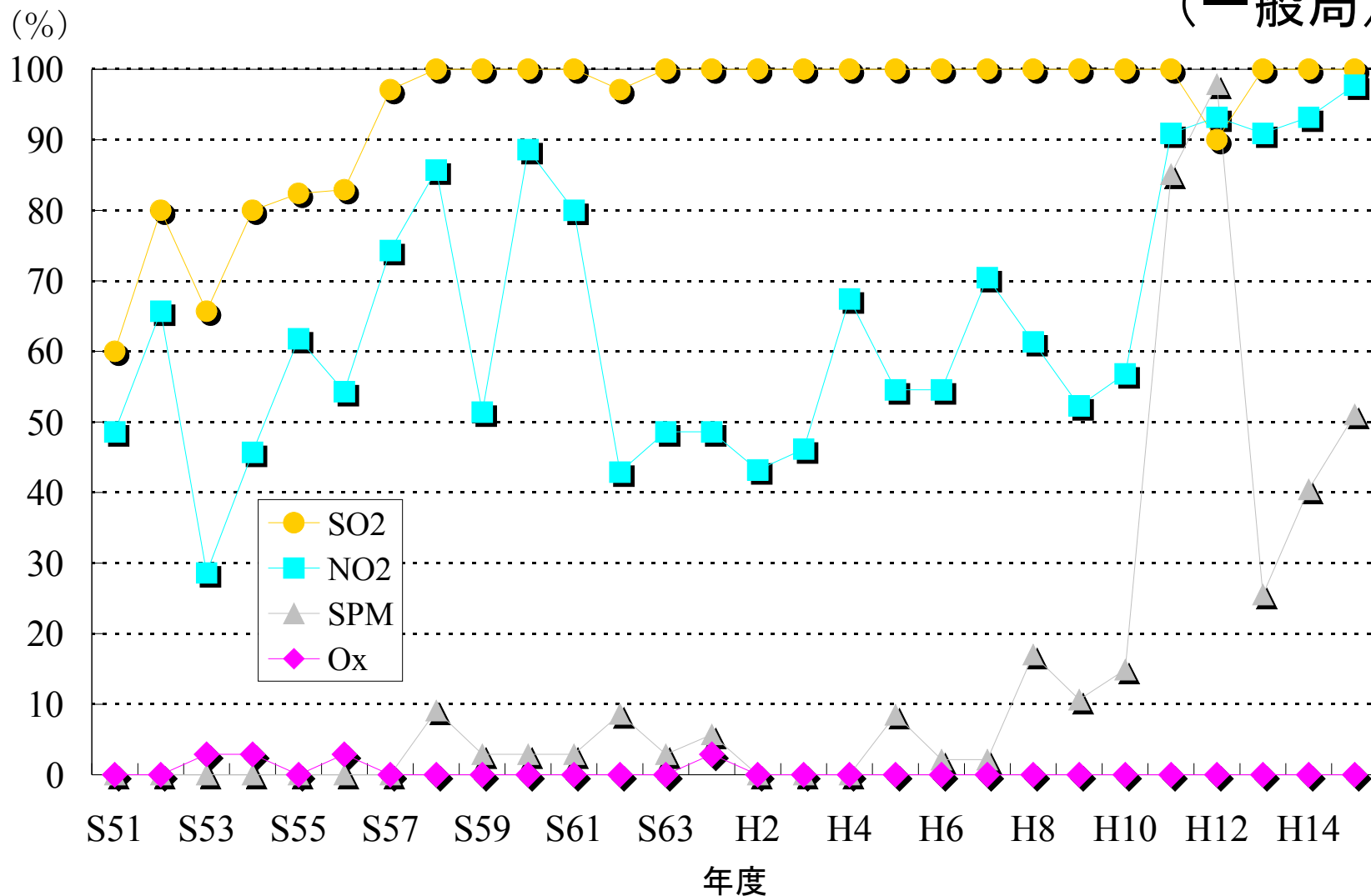
東京都環境局 環境改善部
有害化学物質対策課長 池田 茂

環境濃度の推移

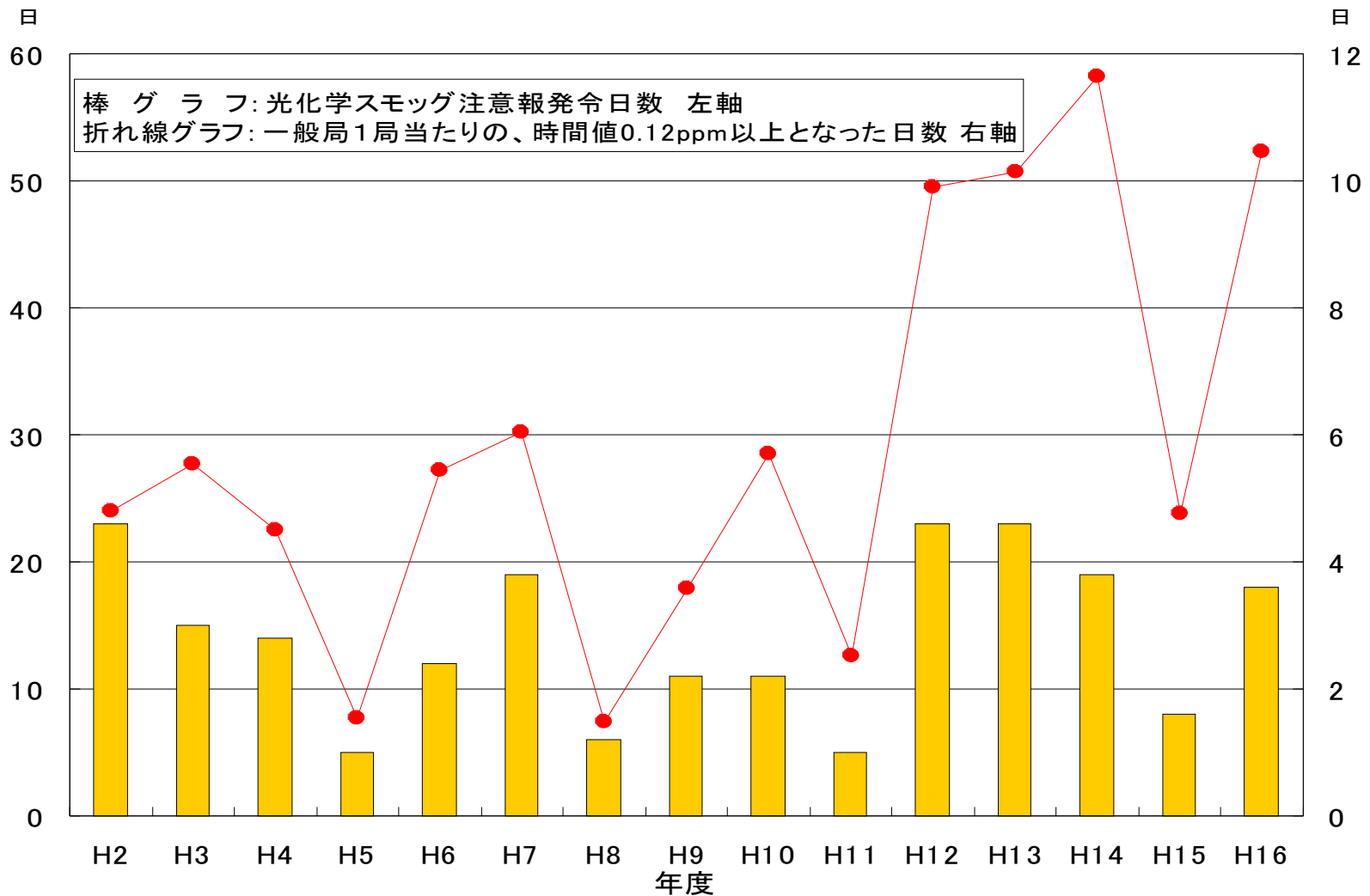


環境基準適合率の推移

(一般局)

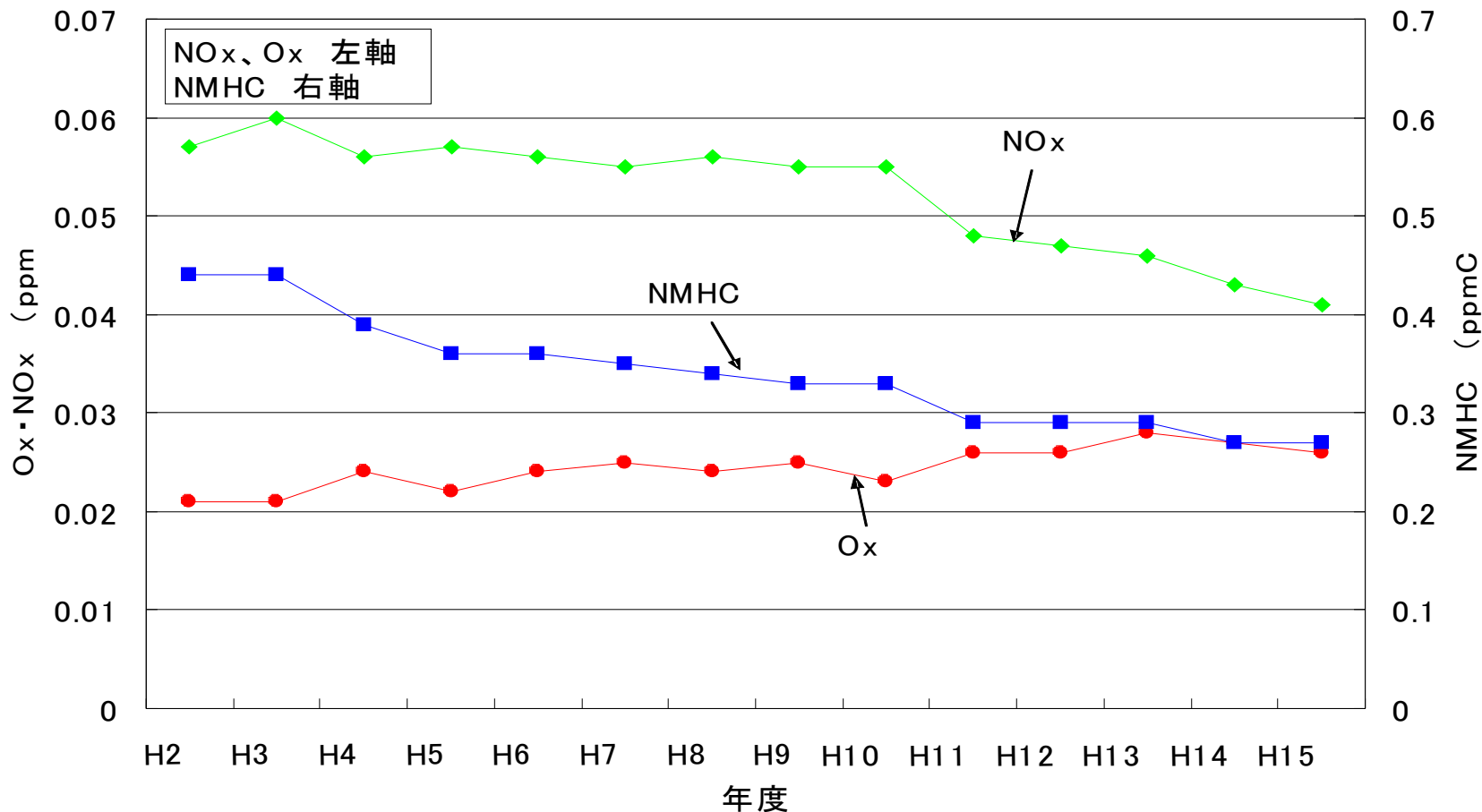


オキシダント高濃度日の推移



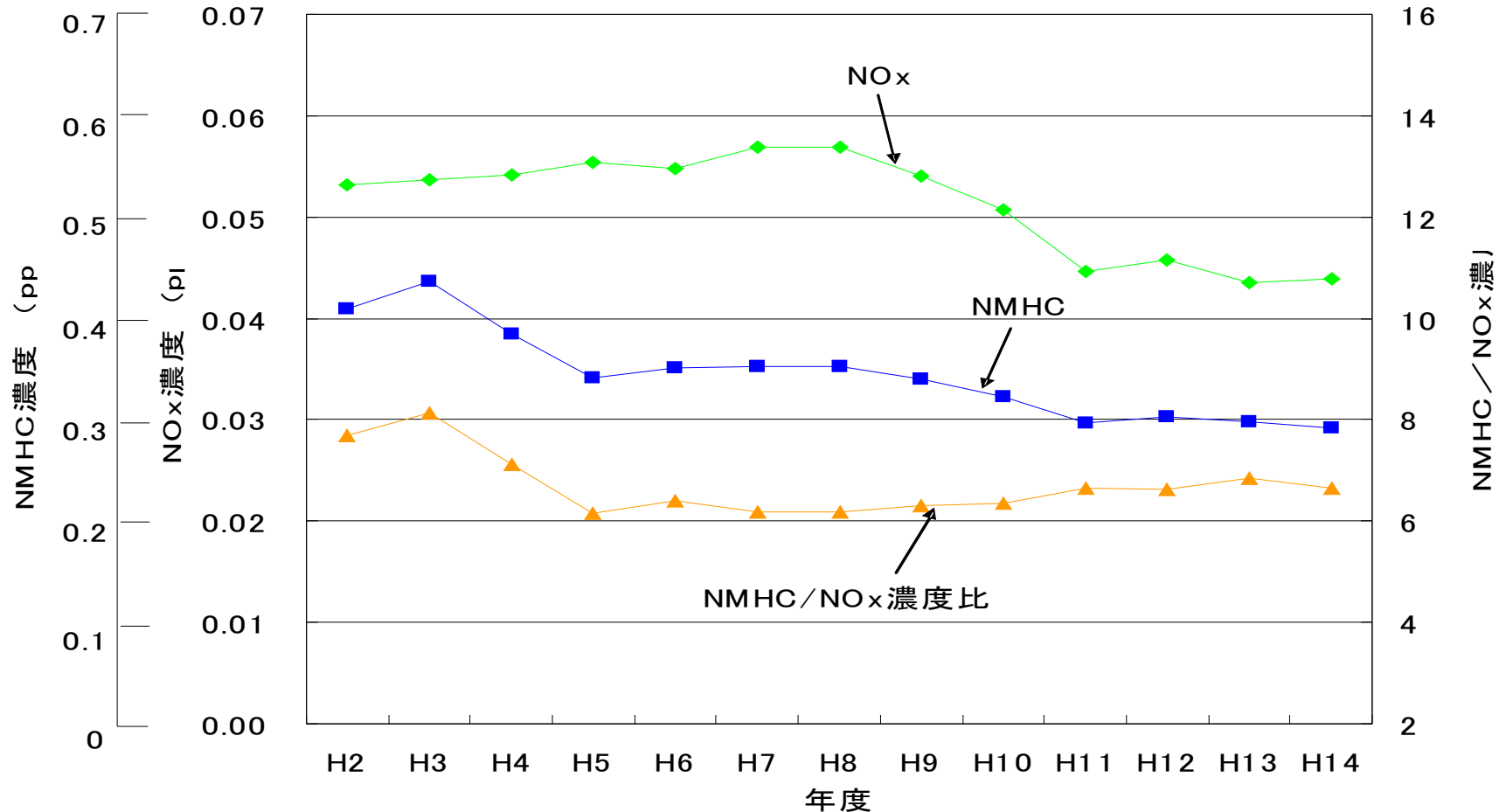
NO_x, O_x, NMHC濃度の経年変化

(年平均値、O_xは5～20時のデータ)



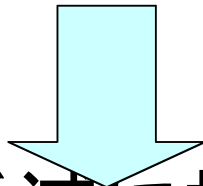
NMHC/NO_xの経年変化

(高濃度発生源エリア、4～9月の6～9時のデータ)



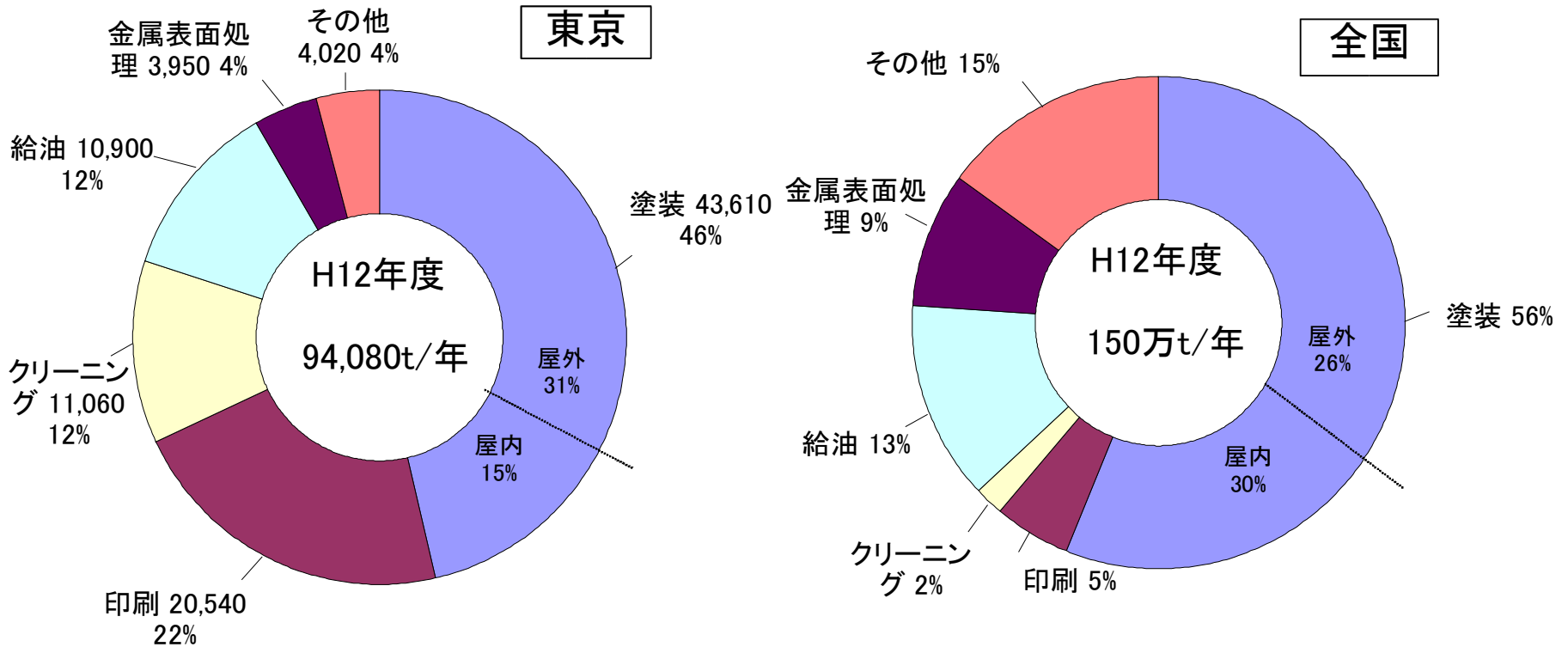
NO_x高濃度日の減少のために

高濃度のNO_xの出現日数を効果的に減少するためには

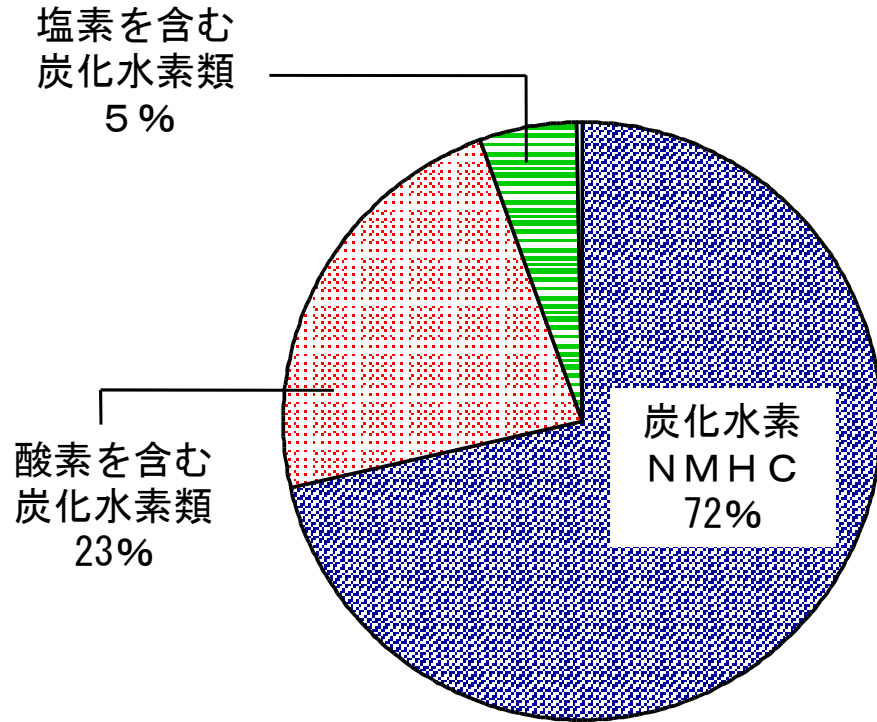


- NO_x濃度の低減に加え、
- NMHCを含むVOC濃度をNO_x濃度の低減率以上に低減させることが必要

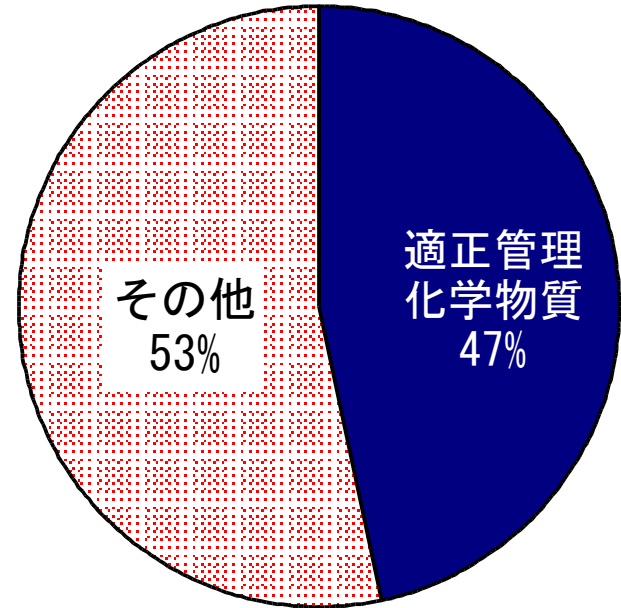
蒸発系VOC排出量(都内/全国)



VOCの内訳

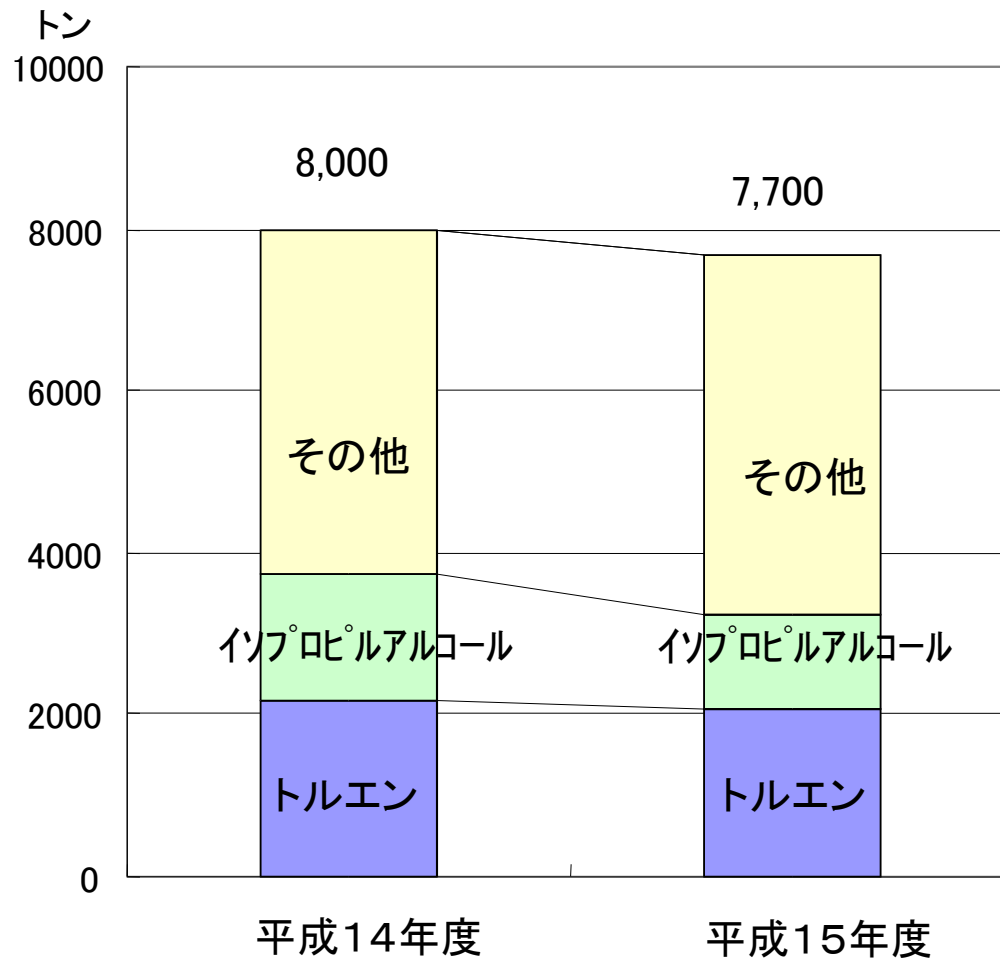


構成元素による分類



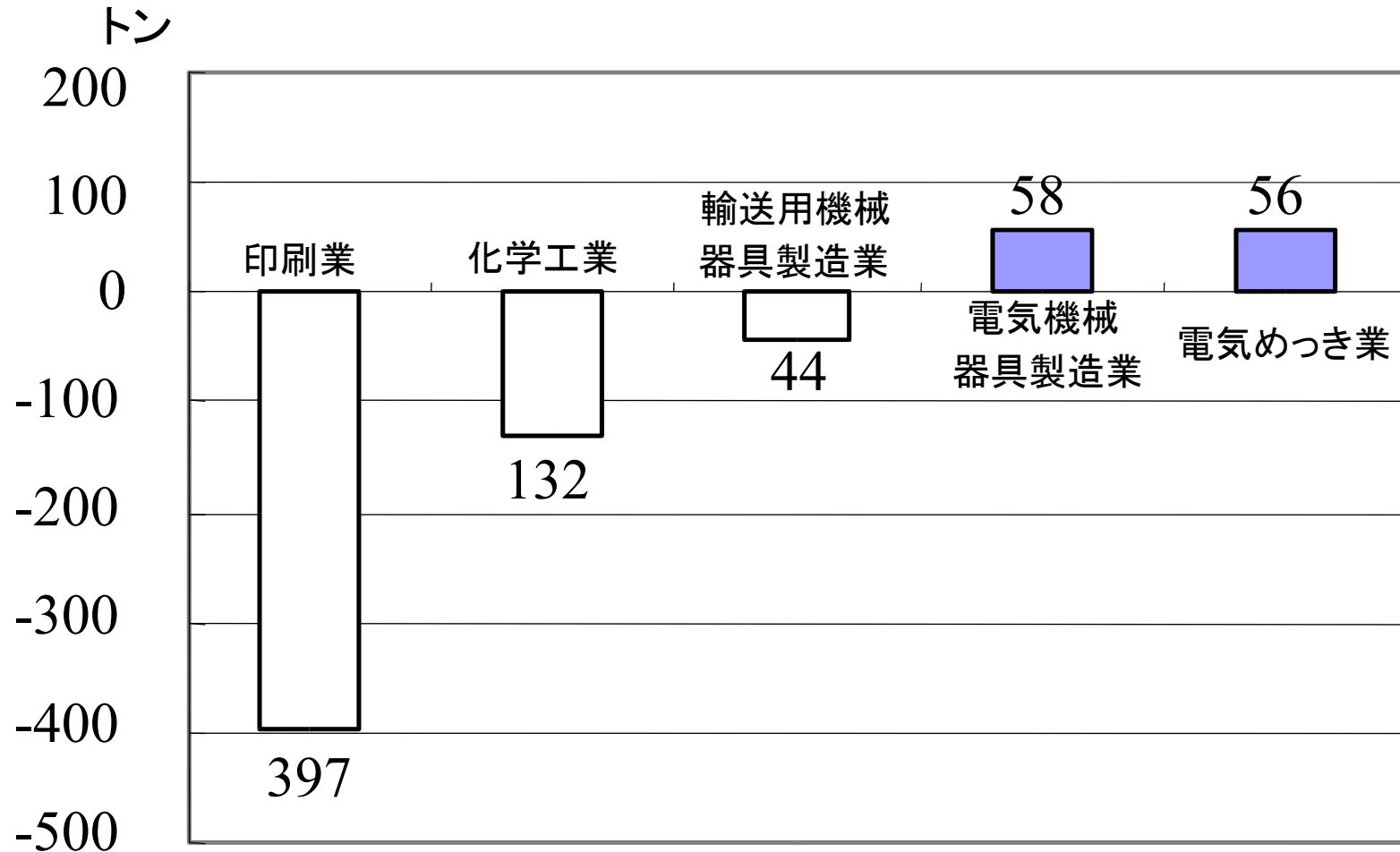
適正管理化学物質の占める割合

環境への排出量の経年変化



(条例)

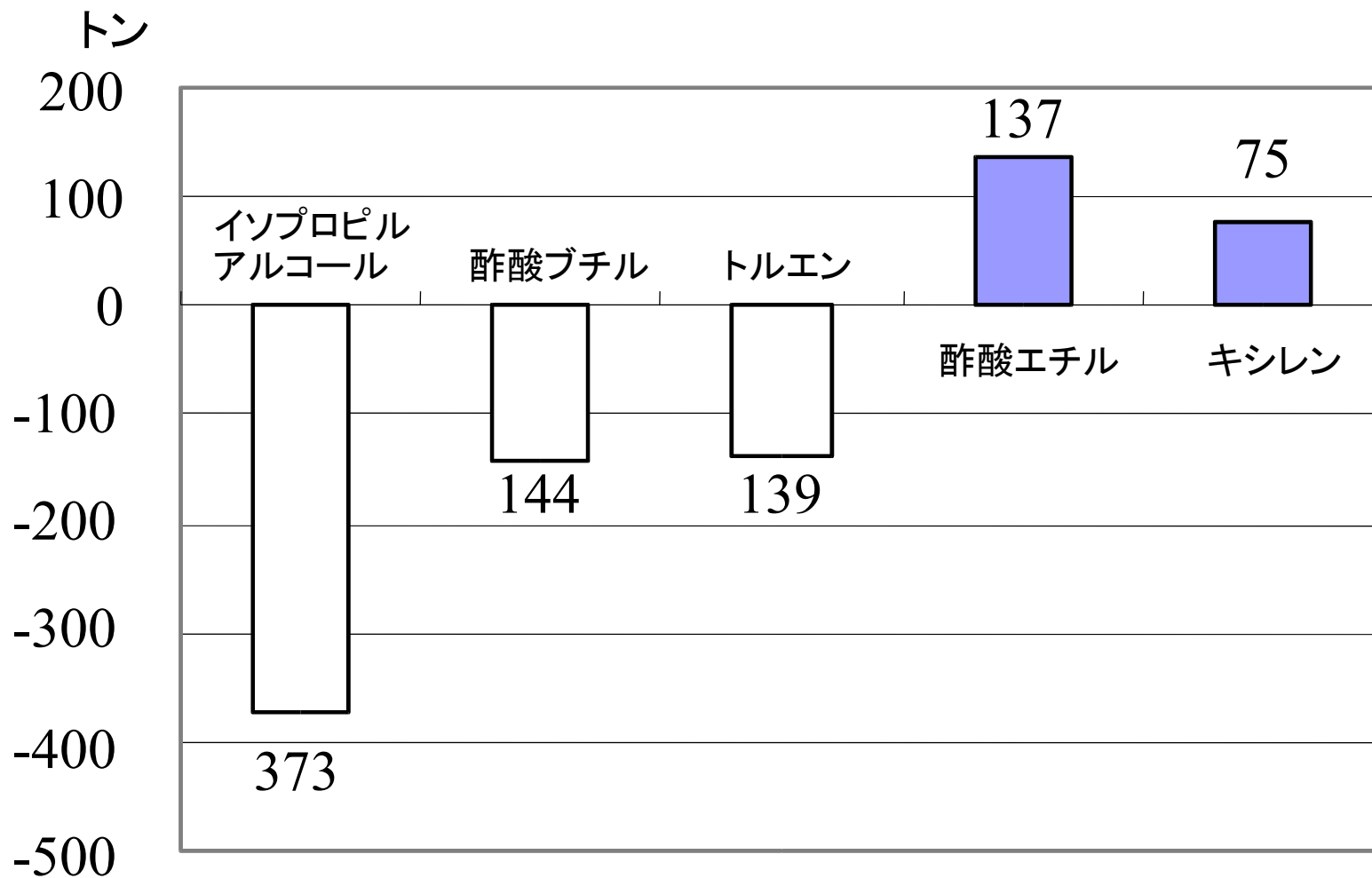
業種別化学物質排出量の増減



平成15年度(平成14年度比)

(条例)

物質別排出量の増減

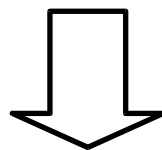


平成15年度(平成14年度比)

(条例)

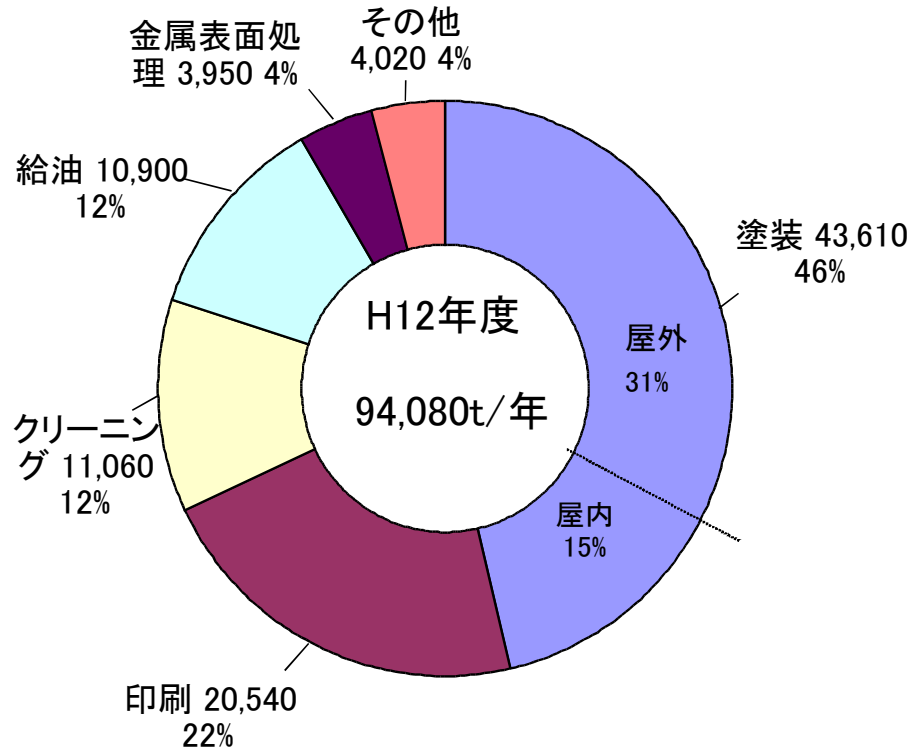
VOC対策の目標

- 平成22年度までに、蒸発系固定発生源からの排出量を平成12年度比で30%以上削減



- 光化学オキシダント高濃度日の減少
- ディーゼル自動車対策等の取組みと合わせて、SPMの環境基準を全測定局で達成
- 有害化学物質による環境リスクの低減

都内のVOC発生源の特徴



屋外塗装からもVOCが多量に排出

VOCを排出する事業所の多くが中小企業

条例の化学物質適正管理制度

化学物質を取り扱う事業者	化学物質適正管理指針に基づき、化学物質の排出量等を把握するとともに、化学物質の適正な管理に努めなければならない。 (第 108条第2項)
適正管理化学物質取扱事業者 (取扱量100kg/年以上)	・使用量等の報告義務 (第 110条第1項) ・化学物質管理方法書の作成義務 (第 111条第1項)
同上 (従業員21人以上)	・化学物質管理方法書の提出義務 (第 111条第2項)

東京都化学物質適正管理指針

(抜粋)

3(3)ウ 化学物質の使用合理化等排出削減に関する取組方法

事業者は、化学物質が環境に及ぼす影響の軽減を図るため、次に掲げる取組について、**目標を設定し、実施するものとする。**

(ア)取扱工程の見直し等による化学物質の使用量等の削減

(イ)排出防止設備の改善等による排出量の削減

VOC対策ガイド

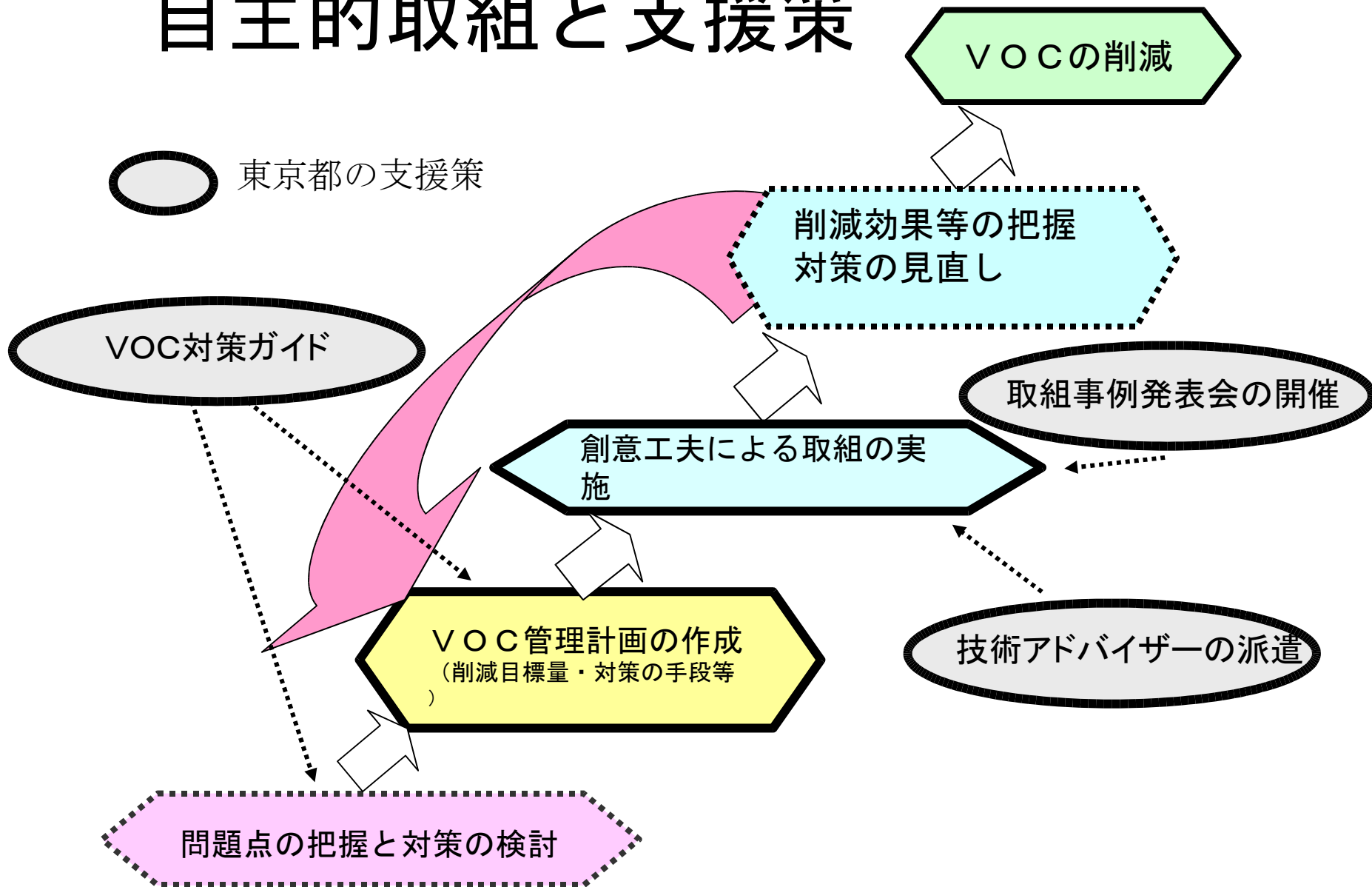
①工場内対策編

- VOC排出抑制のための環境管理面、対策技術面の方策をまとめ、事業者が事業所の実態に即した自主的対策がとれるように技術的に支援

②屋外塗装対策編

- 被塗装物別に適用可能な低VOC塗料の組合せを示し、塗装工事の仕様として選択可能なもの

自主的取組と支援策



低VOC塗料のグリーン購入

- ① グリーン購入ガイド2005
- ② 平成17年度東京都環境物品等調達方針
(公共工事)

建築物内装用	水性塗料(VOC10%以下)
建築物外装用	従来の溶剤型塗料と比較し、VOC含有量を低減した塗

※ 鉛、クロム類0.05%以下

低VOC製品の普及・啓発

